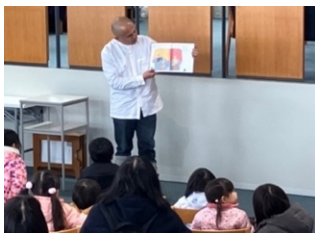
子ども読書推進通信 NO.116　R7. 2.13　発行：十日町情報館　林　篤子

◎情報館で豆まきのイベントが行われました 2/1(土)

文 あいだのりゆき　絵　はすいけもも
出版社　めくるむ



喫茶コーナーで、情報館職員が節分にちなんだ絵本を、会田法行さんが、ご自身の著作絵本『おにがくる』を読み聞かせしました。その後、１階スペースで情報館職員と会田さんが豆まきをしました。普段は静かな情報館は、福を求めて集まった約６０人の親子の笑顔で溢れました。会田さんの本は１階の児童地域資料コーナーにあります。お探しの本がありましたらお声掛けください。

◎情報館のテーマ展示

情報館のテーマ展示について、しばしば利用されるお客様からお褒めの言葉をいただきます。先日も「コーナーになっていると自分では探せない本に出会えるので楽しみにしています」と。情報館では、年間でテーマの計画を立て、毎月のように準備をします。今月も充実したテーマ展示をしていますので、ご覧いただければと思います。「文学賞受賞作品」「追悼」「三島由紀夫生誕 100 年」「芥川賞・直木賞」「新潟ちょこっとおでかけ本」「蔦屋重三郎とその時代」など眺めるだけでも世界が広がり、わくわくします。

◎北欧からの贈り物『ウッレと冬の森』

エルサ・ベスコフ　作　/小野寺百合子　訳　らくだ出版

６歳の誕生日にお父さんからスキーをもらったウッレ。待ちに待った雪が降り、ウッレはスキーをはいて森の中へ滑っていきました。森の中は、なんと美しいのでしょう。まるで冬の王さまが住む魔法のお城のようです。森の中でウッレは、白霜じいさんや冬王さま、そしてクリスマスの準備のために忙しく働くおじいさんやおばあさんや、たくさんの子どもたちに出会います。

ウッレが見た森の中の世界は、真っ白な雪に覆われた、神秘的で美しい十日町の風景と重なります。冬王さまがいなくなると、雪どけばあさんや春の王女さまが来て季節は春になるのです。季節が巡る裏側には、こんな素敵な物語があるのかもしれないと思わせてくれる１冊です。

自然は思い通りにはいきません。だからこそ、人は大いなる自然に畏敬の念を抱き、厳しさと恵みに感謝をしながら日々を生きていくのだということを感じさせてくれます。子ども時代に出会ってほしいベスコフの名作絵本です。（もちろん、大人の方にも！）

〈エルサ・ベスコフ（1874-1953）について〉スウェーデンを代表する絵本作家。鋭い観察眼で子どもたちを見つめ、山や森や湖水や川を愛し、草木や動物にも細やかな愛情を示しました。「**時代がどう変わろうと、人種や言葉がどう異なろうと、エルサ・ベスコフの作品が常に人の心を捉えずにはおかない**」と、小野寺百合子さんはおっしゃっています。スウェーデン人家庭の子ども部屋の本棚には、必ずエルサ・ベスコフの本が何冊かはいっているそうです。

★情報館１階「子ども読書推進コーディネーターの本棚」では長く読みつがれている名作を揃えております。